



カシマサッカースタジアム 新スタジアムプロジェクトに関する記者会見

2026年2月12日



県立カシマサッカースタジアムの歴史と課題

- ・Jリーグが開幕した1993年に日本初の本格的なサッカー専用スタジアムとして建設されて以来、鹿島アントラーズの本拠地として、クラブの華々しい活躍とともに、多くの県民にも愛される地域のシンボル
- ・Jリーグをはじめ、日韓W杯や東京オリンピックの会場となるなど、県を代表する誇客施設



日本初の本格的なサッカー専用スタジアムとして誕生
2002年日韓W杯に合わせて増築し、現在の姿に



スタジアムが生み出す熱狂を背に、
クラブはJリーグ 最多21個のタイトルを獲得



2025年からは「メルカリスタジアム」として
ネーミングライツを導入

一方で…

建設から30年以上が経過し、施設の老朽化が進む中、
安全確保のための 維持管理コスト負担(約8億円／年※)が大きな課題 に

※直近10年間の平均



新スタジアムプロジェクトにおけるこれまでの検討経過

- ・アントラーズが中心となり、県や鹿嶋市らと共に新スタジアムの整備に向けた調査・検討を推進
- ・建設費の高騰など、想定を超える市況の変化も踏まえながら、プロジェクト実現に向けた現実解を模索

これまでのアントラーズからの主な発表内容

- 2026年を目途に新スタジアムについての方針を決定
- スタジアムの完成に終わりは設けず、常に進化する
プラットフォームとして建築
- イベント開催も実施できる機能を有するなど、
周辺開発も進めながら**新たなまちのシンボルとして
利活用される施設**を目指していく
- 新スタジアムは**鹿嶋市内**での建設検討を進める
- 広域課題である渋滞問題など、課題解決に向けた
検証を進めていく

直近の取り組み

- ✓ 新スタジアム関係者協議会の開催
 - ✓ スポーツ庁「スタジアム・アリーナ改革推進事業」受託
 - ✓ 国内外の最新事例研究・視察・関係者ヒアリング
 - ✓ 建設事業者やパートナー企業との対話
- など



プロジェクト実現のためには、新スタジアムは**県による公設**としつつ、建設費や運営・維持管理に
アントラーズなど**民間活力を積極的に導入すること**を県に対して提案



新スタジアムプロジェクトの早期実現に向けて

- ・現スタジアムは、特殊な構造である屋根部分をはじめ、多額の修繕費を要する構造であり、今後も老朽化が進む中では、**更なる維持管理費の増加(県民負担の拡大)が危惧**される
- ・アントラーズなど民間が建設や運営・維持管理に一定の負担をする前提であれば、現スタジアムの維持に多大なコストを費やすより、**新スタジアムを整備する方が県としても中長期的なメリットが大きい**と判断

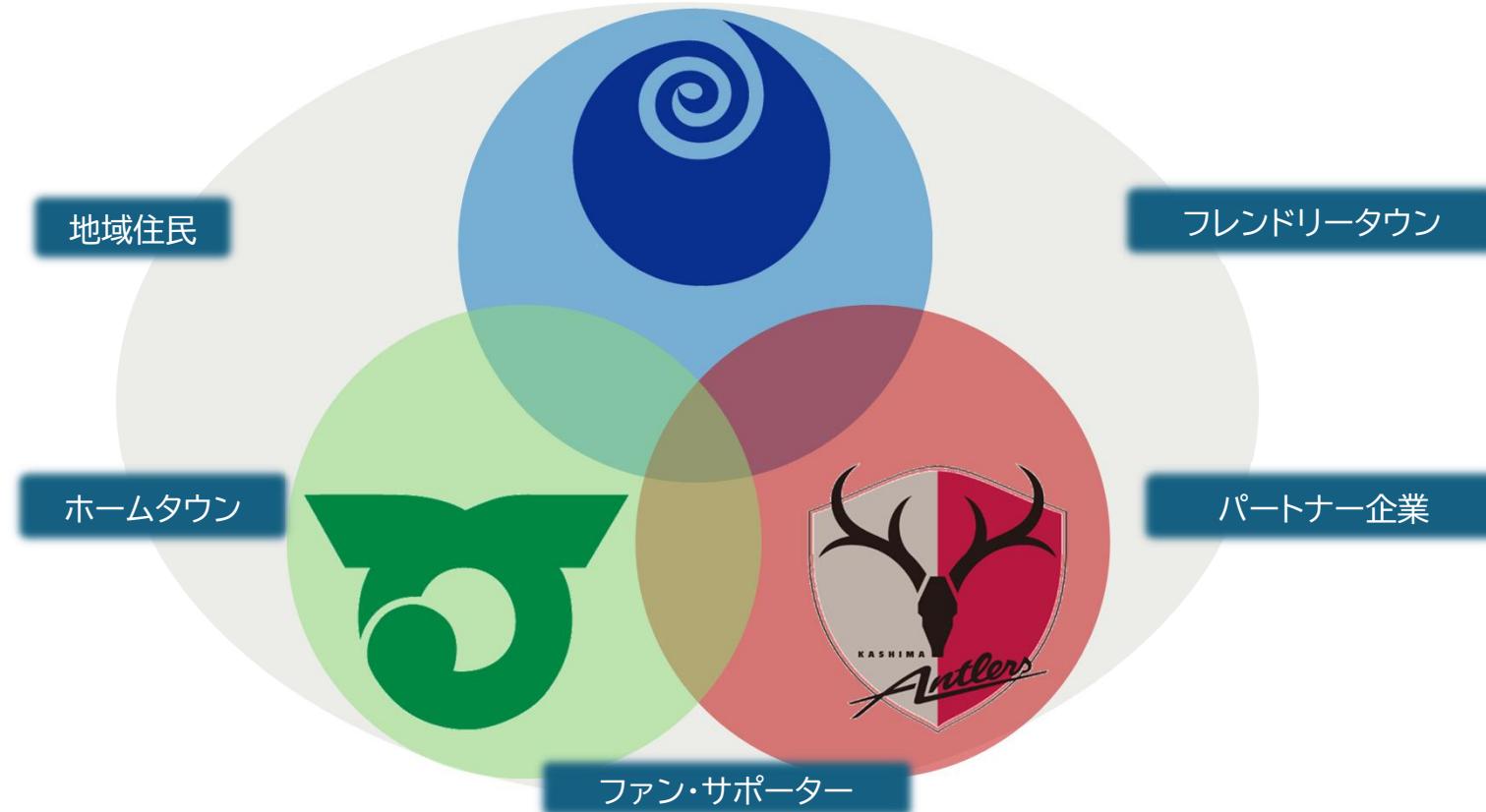


県が主導し、新スタジアムの早期かつ確実な整備を進める



総合力の高いスタジアムの実現へ

- 新スタジアムは公設で整備するが、建設費の一部や運営・維持管理にアントラーズなど民間活力を積極的に導入し、**総合力の高いスタジアム整備**を実現
- 鹿嶋市も周辺インフラ整備など、**周辺エリアを魅力あるエリアに発展させていく**ための検討を担う





新スタジアムの建設予定地

- 鹿嶋市「ト伝の郷運動公園」(現スタジアム隣接地)を建設予定地とし、今後、土地所有者である鹿嶋市等とも協議を進め、都市計画変更を含めた諸手続や周辺まちづくりの検討を進める
- 新スタジアム開業後、現在のスタジアムは一定のレガシーを残しつつ解体する方針だが、跡地については**新スタジアムと一体的なまちづくり**を行い、地域の中長期的な発展を目指す





今後のスケジュール

- 現時点では**2033年開業を目指す**とするが、今後、**基本計画の策定**や**民間活力導入可能性調査**を行い、開業までのスケジュールや事業費の精査等を進めていく

